



2022.6.20

瀬戸ひなご幼稚園園長 神戸洋美

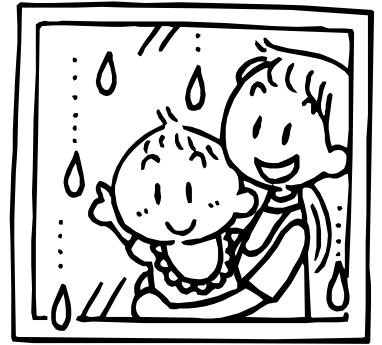
自立へのサポートとは？

『教育の究極の目的は何か』と聞かれたら、それは『子どもの自立』だと思います。この世に命を受けて誕生した我々人間をはじめとする動物等の多くは、夫婦となり子どもを産み、子どもが成長し自立して親から離れていったときに、子育てが終わります。

今、幼稚園ではツバメが一生涯懸命子育てをしています。巣を作り、卵を温め、今は必至で餌を運んでいます。そろそろ子ツバメが外に出るようになり、親は飛び方を教え、やがて巣立っていくでしょう。動物は自立までの期間が短い。生まれてすぐ立ち上がる動物もいます。弱肉強食の自然界の中では、すぐに自立する力がなければ生き延びていくことができません。ひるがえって人間は自立までに20年、成人年齢が引き下げられたので今は18年でしょうか。成長の段階に合わせて、長い時間をかけて育てていきます。どのタイミングでどのようにサポートしていくのか、親として迷ったり悩んだりして子育てをされていると思います。

自立について書かれたある本より引用させていただきます。『子どもが一生涯懸命話しかけても、自分のことに夢中になって「あとでね。」と返す親、子どもの言うことを無条件に聞いて、なんでもやってやる親、自分の考えを押し付けて子どもに強要する親』これらはすべて自立の道を封じてしまっているそうです。『子どもが頑張っているときに、背中をちょっと押し、くじけずしっかり歩いていけるように導いてあげる。そうすると子どもに大きな自信を持たせることができる』とありました。

家族という小さな集団から、幼稚園入園とともに他人ばかりの大きな集団に入り、自立への第一歩を踏み出しました。受け入れる我々教師もこの言葉を忘れず、お子様の成長に合わせてサポートしていきます。



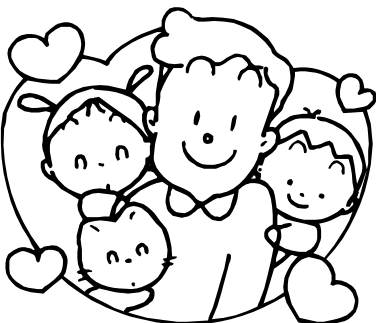
父の日のプレゼント

6月19日は父の日でした。お子さんからのプレゼントはいかがでしたか？お父さんのことを思って一生懸命作りました。喜んでいただけたことと思います。

さて私は父の日には、父の好物だった餅入りもなかを仏壇に供えました。父は昔ながらの「頑固おやじ」で、厳しくていつも叱られるので、そばに近寄らないように避けていました。自分が大人になってからやっと父親の愛情を理解しましたが、距離感は大人になっても縮まらなかったように思います。

でも厳しい父親に育てられて感謝していることがあります。社会に出てから幼稚園園長や公職者として様々な団体に所属し、男性が多い環境の中で仕事をしてきました。会議をしている途中で、中には瞬間湯沸し器のような男性もみえて、凄い勢いで怒鳴り始める方もみえるのです。でも私は動揺することはありませんでした。だって父親と比べたら全然怖くなかったからです。

対照的に主人はとても優しい人です。父親は怒るかもしれませんが、私は父親とは対照的な人を選びました。もちろん我が子たちが悪いことをした時はちゃんと怒っていました。特に息子には厳しかったのですが、私の父の方が先にすごい勢いで叱るので、息子は反抗して壁に穴を開けたことも・・・



そんな息子も今では3人の子どもの父親になりました。その息子が父の日の朝、我が家にやってきてそっと「父の日のプレゼント」とボソッと置いていきました。見ると有名なパン屋さんのパンが5個入っていました。母の日には私にカーネーションの花でしたが、父の日はやはり「花より団子」。やだ、私と同じ！その息子はシャイなところがあって、恥ずかしがり屋の主人にそっくりです。年齢が重なってきたこの頃は、顔も主人に似てきました。孫に怒っている姿を見て、「君も同じだったじゃん！」と父親らしくなった息子を眺めているこの頃です。